

愛について人はどこまで純粹になれるか

男と女の愛の本質を絢爛たる映像で描ききる巨匠ヴィスコンティ衝撃の遺作

A FILM BY LUCHINO VISCONTI

L'INNOCENTE

FREELY BASED ON GABRIELE D'ANNUNZIO'S NOVEL 'THE INTRUDER'

イゼント

ジャンカルロ・ジャンニーニ ラウラ・アントネリ ジェニファー・オニール
監督ルキノ・ヴィスコンティ 撮影バスカリノ・デ・サンティス 音楽フランコ・マンニョー
〈カラー作品〉イタリア映画 サントラ盤キングレコード 日本ヘラルド映画 原作ヘラルド・グロッセ

Herald

巨匠ルキノ・ヴィスコンティ監督作品

イノセント

L'INNOCENTE

＜カラー作品＞

イタリア映画

日本ヘラルド映画



■残されたものへの美しい遺言

イタリア映画界の、というよりもヨーロッパ映画を代表する巨人、故ルキノ・ヴィスコンティ監督。そして彼の遺作となった「イノセント」。ヴィスコンティは1940年代から、イタリア映画界の新しい波「ネオ・レアリズム」のリーダーとして輝かしいスタートを切り、戦後は、貴族出身らしい美意識と完全主義的な映画造りで数々の壮麗で絢爛たる傑作を発表しました。⑤4「夏の嵐」⑤7「白夜」⑥0「若者のすべて」⑥3「山猫」など枚挙にいとまがありません。これらの作品群だけでも巨匠と呼ぶにふさわしいにも拘らず、60年代に入ってからからの第二期黄金時代の作品、⑥9「地獄に堕ちた勇者ども」⑦1「ヘニスに死す」⑦2「ルートヴィヒ」神々の黄昏⑦4「家族の肖像」などなどはまるで美術館に展示されている泰西名画のごとく沈黙のうちに我々に語りかけてきます。

「イノセント」は晩年を迎えたヴィスコンティ監督が、男というもの、女というものの、



そして男と女のあいだに交される愛という情念 et cetera について華麗な語り口による、残された者への遺言です。

物語は……

20世紀の始めのローマ。貴族社会が絢爛と花盛りですが、時代の激しい動きはひたひたと押し寄せてきています。

貴族のトウリオ（ジャンカルロ・ジャンニ・ニ）は愛人テレザ（ジェニファ・オニール）と妻ジュリアーナ（ラウラ・アントネリ）のあいだで真実の愛を求めて彷徨しています。妻には妹のように愛しているといい、愛人にはほくは君だけのものだという。彼はそれが決してエゴイスムだとは思っていない。自分がイノセント……無垢であるために自分に忠実に動いているにすぎないと考えています。しかし対応する二人の女はどうそれに応えたか。やがてドラマは妻が別の男を愛し、その男の子どもを出産するところから悲劇のクライマックスがやってきます。



男と女の愛の葛藤を描きながら、ヴィスコンティ監督はそこに人間の本質をじっと見据えようとするのです。

豪華な美術と衣裳、重厚な演出、ヨーロッパ映画のエッセンスと高貴な香りのなかに、アメリカ映画では得られない感動と味わいがあなたを包みます。

製作はジョヴァンニ・ベルトルッチ、脚本はスージ・チェッキ・ダミコ、音楽はフランコ・マンニノ。いずれもヴィスコンティ監督と30年にわたる付き合いのスタッフたちです。

主演のジャンカルロ・ジャンニ・ニは第二のマルチェロ・マストロヤンニといわれる演技派。相手役はアメリカから呼ばれたジェニファ・オニール、官能派のラウラ・アントネリなどです。

今世紀ではもう観られないだろと言われる傑作「イノセント」の幕が上がります。

（イタリア映画76年度作品／2時間9分）

